

令和7年度 第3回 富岡西高等学校 学校運営協議会 協議内容要旨(報告)

1. 第1回学校運営協議会での指摘と学校での対応について。

理数科の魅力発信と探究的な学びの充実について、今後は、地域連携行事の広報早期化や、持続可能な外部講師調整が課題となる。体育館等での全体発表やポスター発表の経験は、生徒の主体性や自己表現能力の向上に大きく寄与している。専門家や地域住民からのフィードバックを受ける「対話の往復」が学びを深化させ生徒の自信に直結しているとの認識が共有された。また、発表の場を重ねることで、消極的な生徒も自己の意見を構築し、他者へ伝える力を養っていると評価された。

また、生徒を主体とした「親子理科実験教室」等の取組について、地域貢献と教育的効果の両面での意見があった。小学生への指導を通じて高校生が「伝える難しさ」を体験し、自己の理解を深めるプロセスは、生涯学習の観点からも極めて有益であるとされた。さらに、医療機関への訪問や専門家による継続的な伴走型指導が、生徒の探究内容を飛躍的に高度化させている点も評価された。これらの成果をSNSや広報誌等で積極的に発信し、中学生や地域住民に対する本校の魅力発信を強化すべきとの提言がなされた。

2. 学校評価について

体験入学での肯定的な意見が多いのは評価できる。一方で少数意見に着目するのも意義があると考えられる。探究活動にも有効な読書の重要性を広める場として図書室の利用環境の向上は大切である。机・椅子の新規導入はとても良いと思う。

3. 富西グランドデザインに関する主な意見

本校のグランドデザインにおいて、探究活動を通じた「生徒の特色化」が重要な柱として評価された。専門家との対話や発表機会の拡充により、生徒が主体的に意見を構築し、面接等で自信を持って発信できる力が養われている点が成果として挙げられている。一方で、今後は総合的な探究に対して生徒自身がより積極性を持つことや、10年、20年先を見据えた持続可能な学校運営、地域に選ばれる魅力発信の強化が必要であるとの提言がなされた。

その他、将来展望と持続可能な運営体制 徳島県内の生徒数減少や高校再編の動向を踏まえ、県南地域の教育拠点としての存立意義についても議論された。長期的視点に立ち、単発の活動に終わらせず、次代へ継承される持続可能な運営体制を構築することが急務であるとの意見で一致した。